

河北新報のニュースサイト・コルネット

山形のニュース

政宗、つながり深く 山形・高畠町観光協会が仙台で講座



伊達家と山形県高畠町のとがりの深さが紹介された講座

仙台藩祖伊達政宗が幼少期を過ごした山形県高畠町と伊達家のかかわりを学ぶ「伊達政宗のふるさと講座」が24日、仙台市青葉区の河北新報社で開かれた。県境を越えた観光客誘致を進めようと、高畠町観光協会が主催。地域の歴史に詳しい同町の2人が講演し、聴講した120人が歴史ロマンに思いをはせた。

同町文化財保護委員の島津憲一さんの講演は「政宗のふるさと高畠」がテーマ。梵天(ぼんてん)丸と名乗った幼少期、政宗が虎哉(こさい)禅師から帝王学を学んだ同町の資福寺跡などを紹介し、「ここが政宗の人間形成の原風景。その後、岩出山や仙台に移っても、古里の景色は忘れなかつたらう」と話した。

8年前から同町で暮らす宮城大事業構想学部の宮原育子教授(地域資源論)は「政宗の歴史を訪ねて」と題して講演。1380年から162年間、伊達氏の拠点だった同町の高畑城跡などに焦点を当て、「今も歩くと堀跡が分かる。政宗が育った地をぜひ訪れてほしい」と呼び掛けた。

同協会は、近年の戦国武将ブームに乗って宮城県側からも観光客を呼び込もうと、本年度、仙台をターゲットに「伊達家のふるさとキャンペーン」を展開。定期的に観光物産市を開いている。

9月11、25両日には島津さん、宮原さんを案内役に、同町の伊達家ゆかり地を巡る仙台発着の日帰りバスツアーも行う。

2010年07月25日 日曜日

Copyright © The Kahoku Shimpo